

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議

第7回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成 27 年 11 月 2 日（月） 14:00～16:00

場 所：ヴィアーレ大阪 2 階 安土の間

1. 開会

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

きょうは司会進行役を務めさせていただきます、大阪市都市計画局長の川田でございます。よろしくお願い申し上げます。着席して進めさせていただきます。

なお、会場には傍聴の方々、報道関係の方も多数御来場されておりますけれども、皆様方の御理解をいただきながら進めてまいりたいと思います。

まず、協議会会議及び部会の構成員に変更がございましたので紹介させていただきます。

資料 1 の構成員名簿をごらんください。内閣官房内閣審議官、内田様にかわりまして、佐々木様が御就任されております。きょうはその代理として伊藤内閣審議官様にお越しいただいております。

次に、国土交通省近畿地方整備局局长、森様にかわりまして、山田様が御就任されております。きょうは代理といたしまして、高橋副局长にお越しいただいております。

次に国土交通省近畿運輸局局长、土屋様にかわりまして、天谷様が御就任されております。

次に、独立行政法人都市再生機構理事・西日本支社長、伊藤様にかわりまして、西村様が御就任されております。

次に、一般社団法人関西経済同友会代表幹事、加藤様にかわり、村尾様が御就任されております。

また、うめきた 2 期中核機能のあり方につきまして、それを検討するために当部会のごとにうめきた 2 期中核機能推進会議というものを、先月 19 日に設置しております。本日は推進会議での議論内容について、後ほど御報告をいただきますため、座長の大阪大学理事・副学長の八木先生にかわりまして、京都大学教授の小寺先生にお越しいただいてお

ります。

その他、本日御出席いただいております皆様の御紹介は、配席図をもってかえさせていただきますのでよろしくお願いします。

それでは議事に入らせていただきます。本日の議題は、うめきた２期区域中核機能についてと、うめきた２期区域暫定利用の基本方針についてでございます。そのうち基盤整備等の進捗状況、エリアマネジメントの取り組みについて、M I P I M大阪開催決定について御報告いたします。

それでは、事務局のほうから御説明させていただきます。

２．議題

- ・うめきた２期区域 中核機能について
- ・うめきた２期区域 暫定利用の基本方針について

３．報告

- ・基盤整備等の進捗状況について
- ・エリアマネジメントの取り組みについて
- ・M I P I M大阪開催決定について

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

まず、本日定数10名を上回っている35名の方が傍聴に来られておりますが、全員の傍聴を認めるということですのでよろしいでございましょうか。それでは入っていただきたいと思います。

それでは、まず初めにお手元の資料の確認をさせていただきます。

～ 資料確認（省略） ～

山口理事（大阪市）

それでは、うめきた２期区域中核機能について、事務局の方から中間報告をさせていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

それでは小寺先生、補足をお願いいたします。

小寺教授（京都大学）

それでは少し補足させていただきます。京都大学の小寺でございます。

先月、委員会をつくらせていただいて、10月の半ばに委員会を行いまして、大阪大学の八木先生の下、非常に活発な意見交換をさせていただきました。6ページ目にあります委員の構成を見ていただいても、大学の人間ばかりだと大学の話になりますけども、研究機関、それから商工会議所の方々に入っていただいて、1期の中で行われていることも踏まえて意見交換をさせていただきます。それで、産学連携長いことやってきているものとしては、ここをどういうふうな魅力のあるものにしていくかということが非常に重要です。産学連携の基礎研究を大学でやってる意味としては、大学の高度な研究施設でキュリオシティドリブンであったり、ビジョンドリブンである研究開発されるわけですけども、こういう大きなフィールドを使わせていただくということは、市民を巻き込んだシティオブサイエンスのような産官学民というかたちでの拠点形成が必要であろうと。また、ここでないとできないというようなものをつくり上げることが必要で、ここから関西にある優秀な大学が、この大阪の拠点を使って、例えば、フィールド実験をするとか、社会実損の実験をやってみるとか、いろいろ市民を巻き込んだサイエンスとしての方向性を見ていくということが必要になると思います。そのためには、いろんなステークホルダーがいるわけですけども、いろんな側面からの人たちが集まってそれを実行するためには、コーディネート機能が非常に重要でして、集まれば勝手にするだろうということではなくて、その中でベストミックスというか、きちんとした能力を持って意志を貫徹できるような人たちを集めて実証実験していくことが非常に重要で、そのためのコーディネーターの配置、それから、それを責任をもってやる組織の存在というのは、非常に重要であろうと思います。今、子供の人たちが社会の職業につくときには、50%以上の職業がなくなっていると、新しい職種がふえているといわれるくらいですので、やはり、未来を見て、その未来のために何を考えるかというのは、今の子供たちも入れて考えていかなければいけないのではないかと。議論が発散しないように、でも、こじんまりとまとまらないように今、意見交換をさせていただいているというのが現状でございます。この委員の人たちの意見が一つのベクトルの方向へ向いているわけではなくて、散漫な方向とか、好きなことを言っ

ているだけではございますが、今後、いいものになるようにしていきたいと思っています。
以上でございます。

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

続きまして、資料の説明をさせていただきます。うめきた2期区域暫定利用の基本方針についてでございます。

～ 資料説明（省略） ～

武市部長（西日本旅客鉄道株式会社）

それでは最初に、支線地下化事業と新駅事業の全体概要とスケジュールから、JRのほうから説明させていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

河合部長（都市再生機構）

引き続きまして、都市公園基盤整備及び土地取得の進捗状況につきましては、UR都市機構のほうから、御説明差し上げたいと思います。

～ 資料説明（省略） ～

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

続きまして、うめきた先行地区におけますエリアマネジメントの取り組みといたしまして、大阪版BID制度の現在の状況と、国家戦略特区を活用しましたエリアマネジメント活動につきまして御報告いたします。

～ 資料説明（省略） ～

金田部長（西日本旅客鉄道株式会社）

JR西日本から、大阪駅周辺地域における最適ビジネス環境と改善、シティセールス支援事業の取り組みにつきまして、御報告させていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

最後に資料7でございます。M I P I M大阪開催決定について御報告をいたします。

～ 資料説明（省略） ～

川田都市計画局長（大阪市）

ちょっと説明が長くなりまして申しわけございません。これから御意見、御質問を伺ってまいりたいと思います。一部、このうめきた2期については、民間のコンペが既にプロセスとして始まっておりますので、特定の提案者にとって利害が関係するような御発言については、御遠慮いただきたいと思います。

それでは、議題1の中核機能の関連で、まだ中間報告という段階なんですけれども、御意見、御質問等ございましたら、よろしく願いいたします。

では、森会長。

森会長（関西経済連合会）

関西経済連合会の森でございます。

前回のまちづくりの方針の決定に続きまして、中核機能の深掘り検討の状況を御提示いただきました。関係する皆様には、本当にここまでうめきた2期の開発の検討を精力的に進めていただきましたことに、まず御礼を申し上げたいと思います。先ほど、URさんのほうからも御説明がございましたが、ことしの8月に経済3団体からURさんに土地の取得並びに基盤整備や民間開発事業の適切な誘導について依頼させていただきましたけれども、このたび、それらにつきましても決定していただきました。この場をおかりして厚くお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

うめきた2期の開発はですね、数ある開発案件の中でも、最も大きな期待を集めている案件だというふうに思います。それだけ期待が大きいだけ、その成功に向けた課題もほかのプロジェクトに比べて多くあるんじゃないかと思います。今回、URさんに御正式に参加していただくということで、うめきた2期の成功がぐっと現実的になってきたと思って

おります。どうそよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは、2点提案、お願ひをさせていただきたいと思ひています。

まず一点目は、中核機能における総合コーディネーター機能についてでございます。先ほど、事務局の方からも御説明がありましたし小寺先生からも御説明がありましたけれども、中核機能の力を最大限發揮していくには、総合コーディネーターの機能が必要であるということとは私も全く同感であります。1期のナレッジキャピタルはですね、順調に巢立っておりますのも、ナレッジキャピタルの企画運営法人でありますKMO、ここがしっかりとですね、かじ取りをしていただいているからうまくいっているのではないかというふうに思っております、2期も同様にその機能は欠かせないと思ひています。ただ、2期の場合は1期とは違ひまして、違ひた切り口でイノベーションの創出機能を整備しようとしている面もあるように思ひます。その点で、1期のKMOのようにですね、純粋に民間だけで2期の総合コーディネーター機能を担うのには限界があるのではないかというふうにも思ひています。新産業創出をはじめとしますそういう中核機能に照らして考えてみますと、総合コーディネーター機能におきましては、もちろん、民間の知見を生かすことは重要ではありますけれども、一方で例えば、連携大学院の設置とか、国の研究機関の誘致というようなもの、問題は出てきますけれども、どうしてもこれはもう官が全面に立っておいてもらう必要があると思ひます。したがひまして、2期につきましては、官民が一体となって中核機能を整備する方向でぜひ御検討いただきたいと思ひます。

ことしの秋に、先ほど御説明がありましたように、グランフロント大阪でM I P I Mの開催が予定されております。我々としても2期開発のプロモーション活動、民間事業者の支援など、中核機能の整備にできる限りの協力をしてまいりたいと思ひております。

2点目は、国際集客・交流機能についてですけれども、関西の結節地点となりますうめきたに国際集客・交流機能をもたせるということは、大いに賛成ではありますけれども、その役割や人についてですね、今のうちから大きな方向性を決めておくべきではないかなと思ひております、といいますのも、大阪だけを見ましても、既に、ある程度の施設が整備をされておりますし、関西一円で見れば、なおさら、かなり整備されているということが言えると思ひます。こうした既存のストックとうめきたの施設をうまく組み合わせた大阪、さらに関西全体としての最適化が図れるというふうに思ひますので、そういう視点で施設等の方向性というのを今から示しておく必要があるのではないかなと。無駄が生じないという意味でもそのことが必要だろうと思ひます。

こうした点で、うめきたには、大阪だけではなくに関西の結節地点としてどのような役割を求めるのか、そのためにはどれくらいの規模でどのような機能を求められているのかということ、できるだけ早く明示すべきであるのではないかと考えています。ぜひ御検討の方よりしくお願いしたいと思います。

私からは以上です。どうぞよろしくお願いします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。中核機能のことについては、経済界の皆さん方に御意見、引き続きいただきたいと思っておりますけれども、最後に国際集客・交流の規模であるとか、こういった機能をどういうところに配置していくかについては、私どももちろん経済界の皆様方と、こういったフォーメーション、ニーズがあって、それがどの程度大阪、関西で把握できるか、獲得できるかということですね。公民合わせていろいろ一緒に知恵を出して検討したいと思っておりますし、この後の中核機能推進会議の中でも御議論いただきたいと思っておりますので、今しばらくお時間をいただいて、また御報告さしていただければと思っています。

それでは、引き続いて中核機能に関連するんで、大阪商工会議所の児玉さん、一言お願いします。

児玉常務理事・事務局長（大阪商工会議所）

大阪商工会議所の児玉でございます。代理出席の立場ではございますが、コメントをさせていただきます。

まず、前回の地域部会でも申し上げましたとおり、うめきた2期区域のまちづくり方針である「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の実現については、みどりを維持管理するコストを捻出するために、付加価値の高い都市機能を集積させることが課題になるかと存じます。この点においては、イノベーション拠点としての役割が非常に重要であり、1期との連動を十分に考慮しつつ、世界から人材技術をひきつける付加価値の高い中核機能を設定し、多様な交流の中から、新たな価値を創造できる拠点にしていくとの中核機能の方向性についての御説明には、大商としても、おおむね賛同するところでございます。

とりわけ、新産業創出にかんしては、大商では、大阪、関西のみならず、全国を対象としたライフサイエンス分野・振興事業に取り組んでおり、産官学、産産連携を通じた医薬

品医療機器の開発事業化促進プラットフォームである創薬シーズ基盤技術アライアンスネットワークや、次世代医療システム産業化フォーラムを10年以上にわたり運営しておりますが、この経験から申し上げますと、長期に取り組んでようやく関係機関との強固なネットワークや信頼関係が構築され、研究開発の川上から川下までの支援体制が充実し、全国にしても、優位な成果が生まれてきているものと実感しております。ついては、まちづくりの準備段階からイノベーション創出のための総合コーディネート機関を含めた機能整備について、官民で整備を進めることは重要であり、私どもの経験を御活用いただけるのであれば協力させていただきたいと考えています。なお、対象とするテーマは、変化の早い現代においては、時代の流れとともに柔軟に対応すべきと理解する一方、特定分野におけるバリューチェーンのコーディネートや事業化支援機能構築に、相当に時間がかかることを踏まえると、現在、大阪、関西が強み運営する分野から取り組み始め、時代の要請に応じ順次他の分野についても対応していくことが現実的かと考えます。その点、大阪、関西は、国家戦略特区に指定され、ライフサイエンス分野における国際イノベーション拠点形成を目指していることや、大阪のみならず、京都、兵庫において、ライフサイエンス分野における大学研究機関、企業の集積支援体制が充実していることを考慮すると、まずは、ライフサイエンス分野から取り組むことも一案かと存じます。

また、新産業創出以外の中核機能については、今後、より検討がなされるものと存じますが、新産業創出と別物として扱うのではなく、関係性を持った視点で検討することも、機能と効果の最大化を図る上で重要かと考えます。

最後に、新産業創出をはじめ中核機能実現のために、海外の事例を見ても官民挙げての取り組みが非常に重要であります。ついては、中核機能実現において、うめきた2期のまち開きの前後にかかわらず、継続した官民連携による取り組みを行うことをお願い申し上げます。私のコメントとさせていただきます。

ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。小寺先生からもお話があったんですけども、こういった分野でやっていくかということですね。非常に優位性を持っているライフサイエンスっていうのも、関係性を持って考えていくと。いろいろ御指摘あったので、中核機能推進会議の中でもう少し議論させていただきたいと思っております。

それでは、関西経済同友会の代表幹事であります、村尾さんからお願いします。

村尾代表幹事（関西経済同友会）

今日までまとめあげられてこられた基本的なスキームというのは、実はこの方向だと思っているんですが、一点だけ気になって言わせていただきますと、19ページに1期のナレッジキャピタルでは、IT分野等に代表される短期間の事業化が目的が進んでいた。2期では、大学や研究開発拠点の技術シーズを活用する仕組み、こういったものを少し強化していこうというのが打ち出されているんですけれども、まさにそのとおりだと思います。

今、国際競争力のあるものづくり、あるいはビジネスづくりという面で、27ページ以下に書いてあるテーマの考え方で二つの分野が示されているんですが、この中で今、国際ビジネスを考える上で欠かせざる技術シーズの問題として、AI、人工知能の問題があります。多分入っているとは思うんですけれども、これは非常に関西を強化する上での必須の技術シーズであり、なおかつ、こういったものを早くインパクトビジネス化しないと、関西としての強みも失われると思いますから、すぐれた研究機関、大学があるわけですから、人工知能というものが環境エネルギー、ライフサイエンス分野に限らず、関西活性化の一つの大きな技術シーズとして、必ずほうり込んでいただきたいということを申し上げて、私の方からの発言とさせていただきます。

ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。推進会議を出ても、こういう分野というものと横串で技術的なシーズというものをどう組み合わせ、どんなことができるのかというのを、少しアイデアフラッシュもしながら、インダストリー4.0と、IoT、非常に大事になってきているという認識で議論させていただいておりますので、貴重な意見を踏まえて検討したいと思っています。

村尾代表幹事（関西経済同友会）

私どもも、今そういうAIの委員会を立ち上げて調査研究活動を進めてますので、またそういう成果も提言としてお出ししたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

官民連携とか、国の機関の誘致とかおっしゃっていたので、済みません、伊藤審議官に一言コメントいただくとありがたいんですが。

伊藤内閣審議官（内閣官房）

本日は制度の枠組みについて、次の段階に進んでいただいたということで、用地の取得の問題、それから公園の話も関係者の方々の多大な御努力で、かなり思い切ったことを予算措置も含めてお考えいただいたということを、深く感謝申し上げたいというふうに思います。

その上ですね、今の中核機能の話で少し気になることを申し上げたいと思います。テーマとして今、御提示いただいたような健康とか環境エネルギーとかいう話があるのでございますが、このものについては、そもそもスケジュール的に言うと、まち開きがおおむね10年くらい先、10年以上先ということになると思いますが、そのときに今の日本、あるいはこの関西大阪がどういう状況か。オリンピック、パラリンピックをへた後、急速に人口減少になる時期において。どちらにしても健康とかあるいは環境とか、今のテーマ非常に大事なテーマではあると思うんですけども、そういうスケジュールがそのときがどういうことになっているのかということは、少し考えた上でさらにそこを進めていただけるとありがたいというのが一点と、それからその際、先ほどから世界中のという言葉があるんですけども、世界全体なのか、急速に日本と同様に高齢化し、これは高度成長も同時に起きているところもあるんですが、そういうアジアを念頭に置くのか、どこを念頭に置きながらターゲットを考えていくのかなっていうのも合わせてお考えいただくとありがたいなと思います。

それからもう一つ、連携についても大変産学ですばらしい会議をもう立ち上げていただいて御議論いただいていることは大変ありがたいことだというふうに思うんですが、多分、関西の強みは、非常に狭いエリアにいろんな多様な機能が、神戸にもあり京都にもありという格好でたくさんの機能が集積していて、そのハブになるところにここがあるというのが非常に大きいんだろうと思います。なかなか難しい点はあるかと思いますが、ぜひ関西全体の中での連携も合わせてお考えいただくと、今後さらにこの地域のよさ、立地のよさというのが生かせるのではないかなというふうに思います。その上で国家戦略特区を初

めとして国としてもできるだけ応援を、非常に大事なエリアということで、もともと都市再生としても国家戦略特区としても位置づけているところでございますので、積極的に応援をさせていただきたいと、このようにお申し上げます。

以上でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

そうしましたら、橋爪先生いかがでしょうか。

橋爪教授（大阪府立大学・大阪市立大学）

橋爪でございます。中核機能という概念に関しまして、ハードだけではなくてソフトが非常に重要であると。我々は、しばしば4ページのところに概論というのがございますが、しばしばここに立ち戻らなければいけない。関西の強みを生かした先端産業の活性化というものを世界レベルで見るとか、関西は一つのクラスターであるというようなことが示されております。あとうめきたの土地の立地のアドバンテージを生かすということも書かれております。ですので、統合、コーディネーター機関というのを大阪だけではなくて、広く関西の中で、あるいは日本全体を引っ張るような、そういうハード及びソフトで相互の機能を考えるような、そういう機関として検討いただければと思います。

2点目としまして、先ほど国際集客交流機能の話もありましたが、ここに関しても世界の中の、あるいはアジアの中の都市間競争において大阪が地位を持ち続けるという面から、現状がどうかということも必要ですが、8年先どのようにあるべきかということ考えた上で国際集客交流に関しましてもハード及びソフトを考えていくということを強く申し上げたいと思います。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

時間もあれなんで、中核機能以外のことも含めてになると思うんですが、ちょっと中核機能の話、いろいろ御議論いただいたんで、推進会議の小寺先生のほうから一言いただいた上で市長のほうにコメントいただきたいなと思います。

小寺教授（京都大学）

どうもありがとうございます。いろいろ御意見いただきまして、また次回検討するときに考慮させていただきたいと思いますが、幾つか御意見いただいてる、まず一つは、AIとかビッグデータというのは、当然この資料の29とか30の中にあるそれぞれの部品の中で出てくるものでして、それぞれをバランスとるためにも人工知能とか地域プランニングというのはもう、一つのツールとして立派な経済活動にもなってますし、研究活動にもなってます。それで、研究現場も関西の研究現場、非常に活発でして、新しいものを取り入れる優秀な研究室たくさんおられます。その人たちが10年、20年後の世の中で必要となる基礎研究というか部品から、関西の特徴だと思いますけど、いかにそれをアプリケーションにして外へ出していくか、産学連携を含めたアウトプットというか、アウトカムをどうやって出していくかということも含めて若い人から我々、ある程度シニアの者まで一生懸命やってますので、案外ロングレンジで物を考えてる。それから、自分の技術の中へ閉じこもってるという研究者もいますが、それよりもインタラクションを求めて交流をしているという研究者多いですから、ぜひ関西の特徴を生かして議論を進めればと思います。

それから、海外とのインタラクションに関しては、やはり日本は科学技術とか経済では最先端いってるほうですけども、そういう意味では国際的なヨーロッパ、アメリカとの先進諸国との連携、交流というものを見ながら発展途上にあるところ、それから、今から発展してくるところも含めていかに巻き込んでいくか、その巻き込んでいく中核としてこの関西が魅力的になるためには何があればいいのかということが非常に重要なファクターですので、その部品というものをきちんと出して、10年後には中核になれるようにということを考えていく必要があると思います。

また、コーディネートする機関に関してはどういう基本構造が必要なのか、どういうことがあれば我々は非常にやりやすいのか、これからも含めて、今までの壁を取り払って前へ進むことができるように議論していきたいと思います。

今もう大学は非常に人事異動が激しいというか、異動が激しくて活発化してますので、その流動化の中でいかにベストミックスにしていくかということを中心に議論をさせていただきたいと思いますので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

どうもありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

そうしたら、すみません、じゃ知事のほう。

松井大阪府知事

まず、今伊藤さんからの話ありました。このオープン10年先を見越した中で何が必要かというところなんですけど、僕一番思ってるのは、官の役割として世界中から人材を集めてくるときに、その世界の人材、皆さんが十分活躍できる体制を整えるということをやらなければならない。そのためには、やっぱり日本の場合は、日本の中の規制によって優秀な人材が自由に活動できないという、その分野があります。国家戦略特区もスタートいたしましてもう3年なんですけど、3年でやっと今回民泊が認められたというような、そういうスピード感で国の規制緩和というのが、これちょっと非常に時間がかかり過ぎてると。それだけでもすごい時間かかりますんで、この10年の間に、このオープンまでにここで必要な人材と、ここで何をするか、そのことに対して国と我々、地方自治体が規制緩和を含めて、まさにもう日本の中でも超自由に活動しやすいような特区制度というものをつくり上げていかないと、エリアだけつくって人材が活動できないというのは、これは非常にマイナスが大きいと、こう思ってますので、できましたら、どういう活動していく、どういう規制に対してはこの緩和を求めていくかという具体なところをぜひおまとめいただいて、我々を動かしていただきたい、こう思ってます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

じゃ、市長すみません、お願いします。

橋下大阪市長

皆さん、いろいろありがとうございました。

僕は12月18日で任期満了でして、市長を退任します。次期市長に次を引き継ぎますので、少しは皆さんに対してお礼を述べさせてもらいたい、その時間を頂戴したいのと、次期市長に引き継ぐに当たっての若干の思いを述べさせていただきたい思っております。

まず、このうめきたについては、僕が市長に就任したときには全く計画ゼロでした。何をするのか全く決まっていない状況の中で、「みどり」を軸とした世界に通用するまちづくりをとということを僕と知事が、それだけの抽象的なフレーズでばくっとした方針を掲げた中で、きょうお集まりいただいた皆さんに多大なるお力添えをいただきまして、ここまで具体的なまちづくりの方針を示すことができました。本当にありがたく思っております。

この計画についても二転三転、紆余曲折いろいろありましたけれども、関係者が本当に力をあわせてこの4年でここまで具体化できるんだと、みんなが力を合わせたらこうなるんだということをつくづく思いました。このうめきたについては、僕は東京一極集中の是正、そのためには、まずは東京に並ぶ二極目、二つ目のエンジンとして大阪をと。そしてこのうめきたというものがその重要なツールになる、国際的な拠点になるものだというような意識を、これ本当に日本を再生させる重要なプロジェクトだと感じております。これ、皆様同じだと思っています。関西国際空港とのアクセスというところも一つ重要なポイントとして位置づけられまして、このうめきたプロジェクトの成否は、僕は大げさではなく、日本の浮沈に本当に直接影響するんじゃないかという、それぐらいの思いを持っております。土地取得においては、J R T Tの皆さん、それからU Rの皆さん、そして国の調整に入っていて本当にありがたく思っていますし、みどりのまちづくりという点においては、安藤先生や小林教授にお世話になりました。B I Dという制度についても小林教授のお世話になりました。そして、地下化については、これはもうJ Rさんに、そして公園については、これは府と市で予算の調整をやって、今までではあり得なかった府と市の予算の出し方で調整もつけたと、その他経済界の皆さんにもさまざまな御提言をいただいて、今回森会長のほうから中核機能についてももう少し深掘りすべきではないかという提言もいただいてここまでの話に至りました。

これ、言えば簡単なんですけど、僕が市長をやってここに至るまで山ほど課題にぶつかりまして、壁にぶつかりまして、B I Dの制度もそうですし、府と市の予算の措置もそうですし、そのほかの問題についてもさまざまな課題にぶつかるんですけれども、それでも行政の調整、大阪、それから国の調整、経済界の皆さんとの調整をしながら、あとはまた政治的にも、これはやろうと、あとは決めていくこととか、本当にいろんな課題にぶつかってくるんですけれども、皆さんと力あわせて、これは進めていこうということで前に進めていけばこういうふうになるし、ただこれが、そこを課題にぶつかったときに、これ無理だからもうしょうがないよねというふうになれば、とまってしまおうしということを痛感し

ました。ぜひ、この国家的プロジェクトを成功する、成功させるためにもこれからさまざまな課題にぶつかると思うんですけども、そこは諦めずにやろうと、何とかやろうとということで力をあわせて前に進めていただきたいなと思っております。この会議体の力というものを物すごい力を僕は感じておりますので、まち開きは相当先になりますけども、次期市長、次期知事のもとでさらにこのうめきたのプロジェクトを進めていただきたいと思います。その中で少し感じているところ二、三述べさせていただきます。

まず僕は、国の機関の移転が是が非でも必要だというふうに思ってまして、これは地方創生の一つの柱にもなっておりますので、政府におかれましては、国の機関のその移転ということについて、さまざまコーディネート機能ということも経済界のほうからも言われていますので、それにふさわしい国の機関の移転ということをぜひ考えていただきたいなと思っております。

それから、もう一つ、いろいろイノベーションということに当たって、いろんな人の、もっと若いといっても僕もそんな若くはないんですけど、もうちょっと年の若い人たちの話も聞いてみると、結局その人たちがどういう場所に魅力を感じて集まってくるのかという、そのリサーチが非常に必要なのではないのかなと思ってます。これは後の中核機能の部分にもかかわってくるんですが、ここはもう行政があんまり得意でないところでもありますので、関西財界セミナーという非常にそのツールとして活用できるツアーがありますので、そういうところも活用しながらイノベーションを起こす人たちはどういうまちに一体魅力を持ってるのかというところを徹底してリサーチをしていただければと思っています。意外なところに、そんなところに集まってくるのかというようなことも話をしている中で、びっくりするようなこともありましたので、徹底したそのリサーチというものをお願いしたいと思っております。僕のほうは、役所のほうとしては、大阪市として大阪イノベーションハブというものを設けて、人と情報と金が集まる環境をつくろうということで担当局に頑張ってもらい、大阪イノベーションハブは立ち上がり、そしてお金のことについてはグローバルイノベーションファンドが立ち上がり、これも経済界の皆さんに御協力をいただいて50億円規模のファンドになってます。それをさらに推進していくのが2期のまちづくりだと思っていますので、どういうところに人が集まるのかのリサーチとともに人、金、情報、これをどんどん集めていただきたいと思っております。

一つ、ちょっとこれは僕の思いで、皆さんのこれからの議論をお願いしたいなと思っております。この分野をやっぱ決めなきゃいけないのかというところが非常にあって、

ライフサイエンスとかエネルギー、バイオとかそういうところがこれから有効であるということはわかるんですけども、何かその分野というものを明確化しなきゃいけないのかどうなのかというのは、ずっとこのイノベーションのところで知事、市長で携わってきたときにもやもやとしたところが、どうもすっきりしないところはどうしてもあります。

先ほど伊藤さんから言われたように、10年後どうなんだというところで、そこをもし僕らが想像できるということは、もうそれは既にイノベーションじゃないのかなという思いがありまして、イノベーションというのは、やっぱり想像できない、えっというような化学反応でぱっと沸き起こるのがイノベーションなのかなというのを思うと、その分野を、ある程度は絞っていかなきゃいけないんでしょうけども、絞り込むほどイノベーションというものにふさわしいのかという思いがありますので、人、金、情報が集まり、いろんな研究機関だ、何だが集まりながら、そこで何かぽんっとお金出すものがイノベーションということであれば、どう対処分野を決めていくのかというところは、また皆さんに御議論をいただきたいなと思っております。

僕から感じたところはそういうところでありまして、これから中核機能のところが深掘りが本当に大切だと思いますので、小寺教授初め中核機能の推進会議の皆さんにこれから御尽力いただきまして、なんとかうめきたのプロジェクトを成功させてもらって日本再生のそのエンジンにしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

市長のお話が出たんで、まだ時間があるんですけども、もう少し議論させてもらってよろしいですか。

中核機能に限らず、基盤整備、先ほど市長からもお話ありましたようにＪＲＴＴさん、ＪＲさん、非常に御尽力いただいて、ここまで基盤整備ができる方向がつけられましたんで、そういうまちづくりのこれからの進め方も含めて御意見を頂戴したいと思います。

橋下大阪市長

今の時点で、行政的にちょっとここは課題になりそうだと、もう予測ついているところはあるんですか。

川田都市計画局長（大阪市）

特にはないです。

橋下大阪市長

今のところもう大体クリアしましたか。

川田都市計画局長（大阪市）

予算と事業自体が決まりました。特別にはないです。

橋下大阪市長

あとはもう、こういう計画を推進していくということですね。

川田都市計画局長（大阪市）

そうです。コンペの要綱づくりに向けて、我々の求めていく機能の部分というのが多分議論の中心になりますので。

橋下大阪市長

じゃ、一番課題はもう、とりあえずは行政的にはクリアしたと。

川田都市計画局長（大阪市）

はい。すみません、安藤先生からちょっとコメントいただきましたらありがたいんですが、いかがですか。

安藤教授（東京大学）

うめきた1期について言いますと、私ら大体東京へ時々行くんですけども、東京の大手町の開発と全く違うと。個性的でいいなと私は思っております。といいますのは、まず友人の神戸大学の先生が言うのが、いわゆる大手町を見ると同じようなビルが容積いっぱいになってるのが並んでいると、全く個性がないと。一つは人間が、個性のある人間が集まって一つの、10人ぐらいの会社、100人ぐらいの会社つくって行くわけでしょうけども、

日本の1970年代以降は、できるだけ個性を殺して会社をつくってきたのでおもしろくないとよく言われてますけれども、特に大手町の開発もう容積いっぱい同じ箱が同じように並んでいるだけで、外国人もそうなんですけど、来て、何で安藤さん、周り同じようなものばかり建てよるのと。でも考えてみたら、機能と経済だけでつくっていくとああいうふうになるんですね。東京駅ちょっと別ですけども。それから考えてみますと、このうめきたは、てんでばらばらなところもあるけれども、一つずつが自分の意志を持ってつくり上げられていくのと、大阪駅もそうなんですけど、それについて大阪人がもうちょっと自分たちが持ってる場所、自分たちが住んでる町を意識したほうがええんじゃないかなと思うのは、あの駅は多分、世界で一番大きい駅なんではないかと思うんですね。だから活力もあるし、東京の人たちが来て何回か案内したことがあるんですが、大阪駅を案内してうめきた案内すると、こんなになってるの、大阪はと言うてびっくりします。それはやっぱり大きさもびっくりするけども、非常に中階に大きな広場もあります。ああいうものも含めて非常に私は世界中であれだけの個性のある駅と周辺があるのは珍しいと思います。

そして、今、ナレッジキャピタルも含めてそうなんですけれども、結構うまく使われているのにもびっくりしますけども、先ほど森会長が言われましたように、官民とコーディネートをされていかないかと。今、市長が言われましたように、今から多分我々は生きて、ここにおられる人たちはほとんど生きていないのではないという、10年後ですよ。市長は生きてますけどね。それで、そういうことを考えると、今先ほど市長が言われましたように、若い人の意見、今ここにおられる、いわゆるトップの方々の意見も大事ですが、若い人の意見、10年後どうなんのということを考えてみますと、多分この建物も大事は大事だろうと思うんです。イノベーションを起こしていくのは人間ですから、いわゆる、やっぱり日本は言ってもヨーロッパから遠いですから、アジアの中心として若者をどういうふうに育てていくのかという、受け入れていくのと育てていくのが大事だと私は思うんです。そのために、もっともっと、今、日本は一応アジアの中心だと言っていますけれども、その中心が、例えば韓国、中国、台湾、インドネシア、シンガポール、あらゆる国の人たちを呼び込んで勉強できる、奨学金の制度があるとか。

研究者の話になりますが、研究者が京都大学やら来てもですね、2カ月いるってなると、泊まるとこないですよ。ホテルでは恐らく、いわゆる経済的には成り立たない。そういうような受け入れるというのは、一つは人間を受け入れるためにはやっぱり施設も要ります。奨学金等のお金も要ります。そういう、1回ここで育ててもらって向こうへ帰ると、

大阪ってええところ、いいところやなと思います。私、大阪府がやっておられます国際交流財団というのもやっているんですけども、アジアから毎年、大体20人ぐらい呼んでいます。例えば、先週も来てました。1回来たら大体15人から20人ぐらい来るんですけども、韓国、中国、台湾、ベトナム、いろんな人たちが来ています。2カ月、大体ここで滞在して、例えば、積水ハウスとかへ1カ月そこへお世話になって勉強します。1カ月いろいろ見学をして帰って行くんですけども、そしたら、アジアの人たちがいわゆる大阪府財団による基金で集まった人たちのチームをベトナムとかみんなですぐ勝手に向こうがつくって行きます。いわゆる、よくベトナムとか台湾とかあちこち講演会行ったらそういう人たちがわーっと集まってきてやってくれるので、箱も大事やけれどもそっちも大事なんではないかなと思います。それは、ちょうど10万円ずつ払ってくれる企業が20年前からスタートしてるんですけども、初め90社いました。がんがん出てきて今50社、45社ぐらいになってるんですけど、またちょっと頑張っただけで60社に戻したりしながらやってるんですけども、そういうような民間がやっぱり官民ですから、民間もやっぱり、要するに大阪をサポートするという意欲を持ってもらわないかと私は思うんです。同時に、官民ですから、官民、市民の意識はやっぱり私は大阪に住んでるよという、そのプライドを持てる、誇りも持てるような町をつくらないかと思うんですが、それは昭和の初めにできた御堂筋であったり、公会堂であったりするのは、公会堂は寄付で、図書館も寄付ですけども、中之島の、今の御堂筋もそうなんです、そういうものがあって、私は大阪に誇りを持っています。その誇りある大阪をもう一発レベルの高いものが今のうめきた1期だと思いますし、今度は2期ですよ。自分たちの生まれ育ったところが誇りを持ってない人たちがここに残るわけではありませんで、そういう何か、こういう形じゃなしに、それをサポートするシステムも何かあるんじゃないかなと。それはやはり何て言いましても、官民と同時に市民の、自分たちのまちのためにというようなことも考えていただいたらありがたいのではないかと考えています。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

では、小林先生、お願いします。

小林教授（横浜国立大学）

私からちょっと視点の違うお話させていただきます。

きょう、さきほど新しい産業、市の議論がありまして、そこで世界のクラスターの御紹介がございました。さまざまなクラスターで世界的な活動をそこで展開していくと。恐らくこのクラスターの中には、何らかの形でM I C E機能が備わっているのであるというように思います。M I C E機能、御存じのように、産業創出とか交流とか事業マッチング等を行う空間施設であります。ただ、一般的にM I C Eというと、先ほどほかにいろいろ施設があるからそれとの競合はどうかという議論にすぐになるんですが、私は日本の中でそういう施設とは競合しないような新しい会社がM I C Eでできるのはうめきたではないかと。それどういうことかということ、最近実は東京で前の初代の観光庁長官の本保さんを委員長に据えて、しかも私は近く委員会を立ち上げようとしているんですが、それは本保さんに言わせると、都心型エリアM I C E、施設にM I C E機能押し込むのではなくて、エリアのさまざまな空間を活用し、そのエリア全体でM I C E機能を担う、そういうエリアにしたい。特に東京を舞台に少し議論をしたいんですけど、いろいろ具体的な東京のエリアで考えてみても、例えば丸の内ですと、仲通りという道路空間とか行幸通りの空間をどう規制緩和してやるかという議論になるかもしれない。しかし、うめきたでもしやるとすると、真ん中にある大きな緑地と、それから恐らくこれからつくられる新しい空間を活用してM I C E機能を担う。世界から集まってくる企業、研究者がさまざまな会議を行い、さまざまな出会いを行う。そういう空間をつくれる、そういう場になるはずですね。ですから、日本って徹底的に都心型エリアM I C Eというのをうめきたでつくるんだということを具体的に提唱して、これからの2期開発の中でこの準備をしていくというようなことを考えられたらどうか、そのことがこれから用意される新しい機能、あるいは10年後、20年後をさまざまな形で新しい機能に移り変わっても、そうすると10年、20年を考えた魅力的な空間というのが、恐らく東京の大都会、日本の大都市の都心ではほかにはできないんじゃないかなと思います。大阪はこれをつくったという意味を十分に活用するためには、都心型エリアM I C Eというのをうめきたでつくるんだと。

なぜ本保さんが都心型エリアM I C Eというふうに言い出したかということですが、私がちょっとかかわってきたんですけど、日本でオープンにM I C E機能を展開できるのは、治安がいい、問題が少ない、世界の大都市の都心部でそれを胸張って言える、そういう都市が恐らくほかにはないんじゃないかと。日本であれば、東京であれば、大阪であれば、大阪であれば、東京であるよ、そういうオープンなM I C E機能を都心部で担う。それを

ぜひ展開したらどうかということを、まちづくりのお話をさせていただきました。

ありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

ちょっと私ども発想してなかった視点ですので、ちょっと勉強させていただいて、また意見交換させていただければと思います。

それでは、近畿運輸局長の天谷さん、お願いします。

天谷局長（国土交通省近畿運輸局）

きょう初めて参加させていただきまして、ありがとうございます。

国際的なイノベーション拠点をつくっていくということで、これは関西全体の国際競争力の強化でも役立つと思うんですけども、その中でうめきたという立地の特徴ですね、すなわち交通の結節点であり、そして都市の表玄関、都市のど真ん中ですね。ここにあるという、そういう機能をどう生かしていくかと、あるいはそのアドバンテージをどう活用していくかというようなこと、これから多分国際交流とかそういうところで御議論されていくんだと思いますけども、そういう視点がとにかく大事になるのかなと。

すなわち、ターミナル地での利便性の強化であるとか、あるいは都市の見ばえとどういうふうに一体化していくのかと、あれだけの町のど真ん中の表玄関であるからこそ発揮できる機能というようなものをどのようにこのイノベーションのそういう中と一体化していくかというようなことをこれから議論していただければありがたいなというふうに思いました。ちょっと感想を申し上げさせていただきました。

どうもありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

では、引き続いて地方整備局の高橋副局長お願いします。

高橋副局長（国土交通省近畿地方整備局）

ちょっと代理出席で初めてこちらのほう出席させていただきました。

中核機能のほうはうめきたの整備方針にもふさわしいものではないかというふうに、これ進めていく上で大変有効な提案であるというふうに考えております。

また、この整備方針の中で一つの課題であります交通問題、交通機能の連携、特に駅前の電車、バス、自動車交通、歩行者空間の連携というものについては、今後検討は進められていくと思いますが、この整備方針に従った検討をお願いしたいと思います。

また、基盤整備につきましては、ＪＲの地下化事業、また区画整理事業につきましても国土交通省といたしましても人の予算の確保ということに努めて、引き続き支援をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

ぜひ、予算の確保をよろしくお願いします。

それでは、ＪＲ西日本の真鍋社長、お願いします。

真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）

ＪＲでございます。本日、皆さん方のお話に出てまいりましたように、ここまでよく進んできたなということでございまして、私どもが担当いたします鉄道の地下化の部分につきましても、先ほど御説明しましたように、皆さん方の御努力と調整をいただきまして年内契約が来年度に向けてのものも含めて進められるような段階までまいりました。本当にありがとうございました。

暫定利用の関係だけちょっとお話させていただきますと、地下の駅ということでございますけれど、駅ができましたときの駅前のオープンスペースを有効活用するという、これも非常に大事なことになってくるとは思います。特に先ほど安藤先生のお話ありましたように、大阪駅、今度は地下も含めて一体となった大阪駅になるわけですが、その存在感があり、かつ集まる皆さんに有効に使っていただけるような、そういうスペースをつくっていかなくちゃいけないと思いますので、その辺の議論を引き続きよろしくお願いしますなと思います。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、日本郵政の井上さんお願いいたします。

井上執行役（日本郵政株式会社）

代理でございます。

今回は駅のつくり方とかいろいろ具体的にお話しいただきまして、大変ありがとうございました。

私もちょっと暫定活用の話なんですけれども、私どもちょっと残念ながらまだ開発ができておりませんで、旧中央郵便局の後がイベント広場ということでやっております。規模も小さいのでそれなりの規模でやっておりますので、ほとんど憩いの場というようなことで使っていただいているというのが実態でございます。それで本当に、こんなに長くするつもりはなかったんですけども、このぐらいの期間だったら考えておきやよかったなと思うのは、今回周辺エリアの活性化に資するということで、これがその、ここで何かをやるから周辺エリアを活性化するという考え方と、ということは周辺エリアが何か変わるためにこの場所を使わせてあげるとか、そういうことも自分たち考えておいたらよかったのかなと思って今、反省をしております。例えば、公共施設とかで更新を必要としているものとか、そういったものがあるのであれば、そういったことをあいている間に何かやるとか、そういうのも一つは周辺エリアの活性化なのかなというふうに思います。

また、いろんな形でミニ開発されようとしている周辺の方たちが代替といいますか、暫定化、この場所を必要とされているようなところも、まわりの周辺エリアの活性化とかがあるのかなという感じはしております。そういう意味で周辺エリアの活性化ということについて幅広くお考えいただけるとありがたいのかなと、こういうふうに考えております。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

では、阪急電鉄の角会長、お願いします。

角代表取締役会長（阪急電鉄株式会社）

基本的には、森会長初め経済3団体の皆様の御発言と全く同意見でございます。

個人的にここまでのお話をお聞きしまして、私は小林先生の都心型エリアMICEということについては全面的に賛成の意を表します。

もともと個人的に私は関西全体がIR統合型リゾートとだということをずっと主張しておりまして、きょうの資料にもありましたように、ちょうどそのシリコンバレーと、京阪神が4,800平方キロメートルで同一規模であるということは初めてしりましたけれども、やはりその京阪神が力をあわせて都心型エリアMICEをこれから進めていって、その情報発信基地としてうめきたがあるという位置づけは非常にわかりやすい議論ではないかなというふうに思います。

それと、伊藤審議官のほうからのまち開きが10年先という話がありましたけれども、やはり一方で、市長のほうから国の機関をこちらへ持ってくるべきだという話もありまして、国・府・市の力によりましてPMDA、あるいはAMEDもグランフロント大阪に誘致をしていただいたわけですが、これをさらにその内容を充実して、ある分野においてはきちっと関西で創薬の審査ができるとか、医療機器の審査ができるような体制にぜひともこの10年間に持って行っていただいて、この10年間は非常に重要なウォーミングアップ期間であって、10年後にまち開きと同時にスタートダッシュをするというふうな気概で取り組むことが必要ではないかというふうに考えます。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、阪神電鉄の藤原社長、お願いします。

藤原代表取締役社長（阪神電気鉄道株式会社）

阪神の藤原でございます。

我々、西梅田でエリアマネジメントをやってきて、その後でこういうふうなBIDの議論を含めて非常に具体的な形になってきた。このせつかく、これまち開きまで10年ございます。その間にもっと雰囲気盛り上げるための大阪、これを継続的に進めていく必要があるんじゃないかと。じゃ、どういうふうなことでみんなの雰囲気づくりをするんだということだと思いますけども、常に変化をできましたというのはなかなか少のうございま

すが、一つ思いますのは、我々も阪神百貨店、梅田1丁目1番地地域枠で道路の周辺のお手伝いもさせていただいております。このような道路を、こういうものの変化が大阪中心部にこれから何か改革が起こるんだぞというふうな形で引き続き行われて、将来のエリアマネジメントにつながっていけるんだと、そのように念じるところでございます。これについては、市または先生方のいろんな御意見を、その中で新しいものをぜひつくっていただければと、よろしくお願いを申し上げます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、三菱地所の岩田常務のほうから、よろしくお願いします。

岩田常務執行役員（三菱地所株式会社）

本日は初参加でございます。社長の杉山の代理で参りました。

先ほど安藤先生からおっしゃられましたように大手町で同じビル容積いっぱいつくって
る会社でございます。

ただ、今度のうめきたはやっぱりそういった東京のまねをする必要は全くないと思って
おりまして、やっぱり大阪が誇れる大阪のほうがか昔大大阪とか言われた時代もあるらしい
ですけれども、そのときに匹敵するようなものをめざして、大阪全体で頑張っていく必要
があらうかなと思います。

その中で一つお願いしたいこととしては、そこはやはり規制緩和ではないかなと思って
おります。一つ、例えば丸の内の方でもシャンゼリゼのようにカフェを道端に出してや
ろうと言ったときに、皆さん御存じのとおり、警察があり、消防があり保健局まで出てき
て、いろいろ縦割りでいろんなことを、ある意味ちょっと若干矛盾することもおっしゃら
れることもありまして、つまり、そういういいことをやろうとしてもなかなか縦割りのと
ころでうまく調整できないというところが多々あります。そういった中で、今回こうい
った思い切ったプロジェクトをやるときには、思い切った規制緩和をぜひお願いしたいな
と思います。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、この間、いろいろ土地取得等に御尽力いただきました鉄道運輸機構の瀬川さん、それからURの都市機構の西村さんと順に御意見を申し上げます。

西村理事・西日本支社長（都市再生機構）

URでございます。

昨年この部会以降ですね、市さんあるいは経済界の皆様方からURしっかり基盤整備と民間誘導やってほしいという、こんな御要請をいただきました。先ほど来、御説明いたしましておりますように、土地取得契約、あるいは区画整理の事業認可も近日中でいただける予定でございます。

いよいよ私どもとしては、事業のスタートラインに立たせていただいたという、こういう思いでございます。1期と比べまして、2期はJRさんの大規模な工事が同じエリアでありましたり、あるいは、地上、地下いろんな構造物を移転、移設するような、大変大がかりで複雑な仕事になりますけれども、皆様の御期待にそえるようにしっかりと事業のほう進めてまいりたいというふうに思っております。

それから、今後民間事業者を誘導するということで、今後は民間事業者から参加、提案をいただくというフレーズに向かっての検討を進めていくことになるわけですが、きょう御提案があった中核機能のほうを進めていく仕組みの中で、総合コーディネート機関の設置というのが、これが1期にはない2期ならではの提案ではなかったかというふうに思います。ぜひ民間事業者さんから提案をいただく段階までにいろいろ具体的に検討が深まるということをお願いできればというふうに思います。

どうぞ、よろしく申し上げます。

瀬川顧問（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

鉄道運輸機構でございます。

本当ここにおられる皆様方の御努力、あるいは関係する機関のお力によりまして、本日御報告でございますように、対象地の事業も着々と進んでいます。その中でおかげさまをもちまして私たちの所有地につきましても10月30日、URさんと譲渡契約結ぶことができました。本当にこの席をおかりしまして、皆様方に厚く御礼を申し上げる次第でございます。

本当にありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、最後になるんですけども、市長。

橋下大阪市長

2点、委員にちょっと御質問と言いますか、後学のためというか、小林教授と小寺教授にちょっと御質問させてもらいたいんですが、1点、エリアM I C Eという考え方なんですけど、これはうめきたの空間が具体、どうなるという、こう施設をつくってM I C Eではなければ、どういうイメージなのかというのが、ちょっとエリアM I C E初めてお聞きしたので、ちょっとその点とですね、あと、小寺教授の先ほどのうめきたのイノベーションを考えたときに、対象分野の設定の仕方というものは、どういうふう考えたらいのかということのをちょっと簡単に教えていただけたらなと思いますけども。

小林教授（横浜国立大学）

本保先生と私が言い出したことなので、都心型エリアM I C Eというんですけど、定義があるわけじゃありません。ただ、私が個人的に考えているのは、今までのM I C Eというのはかなり大きな施設をつくって、その中にみんな機能を押し込むんですよね。そうではなくて、まちに全部それ開かれてしまう、開いてしまう。会議やる場所もイベントやる場所も、場合によってはレストランとか、あるいは楽しむ空間、さらにはそういう空間がこのエリア全体で用意されて、それが世の中に押し込められているか、M I C E機能であるという空間をつくり出す。それを最もうまくつくり出せる可能性があるのがうめきただというふうに思ってる。

これから議論したいと思いますし、委員会をこれから立ち上げるんですが、できれば大阪市の都市計画審議会会長の角野先生にも入ってもらおうかなと、きのう盛岡でお願いしました。

橋下大阪市長

ぜひお願いします。

小寺教授（京都大学）

それでは、市長の質問に答えたいと思います。

ここから私個人の大意になりますけども、私は分野は決めないほうがいいと思ってます、というのは、分野というのは人によってとらえ方が全然違って、科学技術のある分野でいう形で捉えると、分野をやると主の分野、従の分野、サポートの分野というのができてきて、その主の分野に入らなければ、それはただのお手伝いになってしまう。ところが先ほどの資料の29、30ページっていうのを見ると、実は情報通信であってもエネルギーであっても、それから医療、それから食文化であって、今もう全てが関係してるんですね。それで、あるときは誰かが主役であり、ある方向から見ると誰かが主役になる。そのときはほかの分野はサポート役に回ってるというのが状態で、でもそれがこれから10年、20年とどんどん変化していくときに、その主役になってる人たちが変わってるだけで、分野構成というか、それを構成している分野というのはいつも少し増殖したり、減ったりしますけども変わってるだけ。ですから、いかにそのテーマを見つけて、そのテーマを実現していくための拠点化っていうのをやって、最初のテーマはこれですっていうのを設定することによって、まずは人を集めていく。そのときに最初からブロードになってるとばらばらになって何も起きないですけども、最初に何のテーマをここでやりたかということをつくってあげるのが必要じゃないかと私は思います。

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、ほかいかがでしょうか。

そうしたら最後、知事、市長からもし何かコメントございましたら。

松井大阪府知事

今の先生のそのテーマなんですけどね、ぜひこれ、これから大阪もまさになんですけど、超高齢化社会に入りますんで、先ほど安藤先生がもう10年もしたらほとんどの方がもういらっしやらいんじゃないかみたいな話がありました。でも、ぜひ安藤先生が10年後、15年後そのまま元気でいれるような、そういうイノベーションを起こせるエリアをぜひ、僕は一番これから世界で必要に、世界のテーマの解決できる必要な分野だと思いますんで、そういうところも一つのテーマだということで考えていただいて、御議論お願いします。

橋下大阪市長（大阪市）

本当に皆さんありがとうございました。

また、引き続き皆さんのこの力でこのうめきたのプロジェクトを進めていただきたいと思います。

行政的な課題ももうクリアになったということですが、また進めていくに当たって壁にぶつかるとかありましたら、そういう場合にはこういうトップの方が集まって、そしてエリアを進めていかなければいけないので、トップ会議は本当に重要だと思うんですが、安藤さんが言われたように、アイデアをヒアリングする際には、20代とか30代とか、とんがったそういうメンバーですよ、そういう人たちにできる限りヒアリングをしながら、ちょっとこれはトップ会議で議論するにはどうなんだろうとか、この場で考えててもそれはおかしいんじゃないと思われるようなものこそが、何かイノベーションを生む可能性を秘めている場合も多いので、どうしても我々トップ会議になると、そういうとんがった人がなかなか集まりにくいようなこともありますけども、あえてそういうところにヒアリングをして、これどうなんだろうねというように、みんながここで首をかしげるようなものを集めて議論するような、そういう会議体にもしてもらいたいと思いますので、引き続きお願いします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

きょう、本当に非常に、ちょっと我々からの発想を変えていただくような御意見いただきましたので、それを踏まえて引き続き検討したいと思います。

では、これをもちまして本日の議事を終了させていただきたいと思います。

どうも、ありがとうございました。